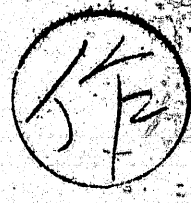


31

人

緊急親展

一 一 一 受信開始 一四四〇二 一七一五 電〇五二八七 航作 概本〇



第六艦隊司令部、第二七航空戦隊

第三航空艦隊司令部、聯合艦隊司令部、W三空襲部隊（聯合基地航空部隊）

香取航空基地



機密第一一〇二一〇番電

發 一 K E G B 指揮官

玄作戰 G 戦果

偵察 T 一 一 彩雲二機 N M E 二 向ヶ發進セルモ天候不良ノ爲引返シ香取
着本日 N M E 進出ヲ取止ム。

（京通註 本電間合セノ爲遲延）

通五九九一 呂一 B (B) 木空基地

32

親展

陸軍省

一 一 一 受信一七五〇八 譯了一八二五 電〇五二八六 參作本概〇

四 通

軍令部總長

機密第一一六三〇番電

宛 四 長官 第五二師團長

g 電令作第四六六號

四 司令長官並ニ第五二師團長ハ夫夫同官所定ニ依リ「エంత」ニ

「島守備海陸軍部隊ノ一部ヲ適宜「トラツク」ニ轉進ヒシムベシ

通六〇三八 呂二B(B)GFL

八



一二二 受信 始信 一一〇五五 電丁 一一四五 電〇五五六九 作概 〇

● 第一千歳航空基地

● 千根▽・第四監視艇隊▽

● 大滝参一部・第二三戦隊▽・大警
聯合艦隊口

機密第一二〇九〇七番電

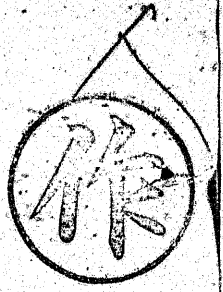
發 第十二航空艦隊參謀長

一、第四監視艇隊ハ概ネ四月以降釧路ヲ基地トシ北海道南東洋上ニ於テ敵
攻敵部隊竝ニ大型機ニ對スル監視哨戒ニ任ゼシメラルル豫定ニ付之ガ
準備ヲ進メラレ度

二、目下北千島ニ於テ越冬中ノ監視艇ハ之ヲ成ルベク速ニ横濱方面ニ回航
修理整備ノコトニ取計ハレ度。

通六三四三 呂二〇ラ十八(七五〇五) 〇

33



一二三
受信一九五六
開始一九五六
譯了一九五〇
電〇五七九六
航作
本概〇

親急
展

- 第二空挺隊 (鈴鹿基地)
- 聯合艦隊中・第十一、第二十一各航戰

機密
一三一七番電

挺身航空部隊電令第二十號

第二空挺隊指揮官ハ新機材空輸並ニ搭收機ヲ以テ在第二空廠 兵器三

應ヲ高雄ニ空輸スベシ。

通六五二二 呂一
概通 古屋 (雨 谷)

Handwritten mark resembling '30' or '3A'.

35

下

一一三

受信 〇〇九七二〇五

譯子 一〇一〇

電 〇六〇三七

作概 〇
未本

至急 進展

支那 方面 監視 中

聯合 艦隊 中

傍

機密 第一二一四二七番電

支那 派遣 軍 八 本 月 中 旬 バイ マ ス 灣 (澳 頭) 紅 海 灣 (汕 尾 陸 豐)
礪 石 灣 (海 豐) 等 各 一 箇 大 隊 ヲ 以 テ 占 據 ノ 豫 定

通 六 八 二 三 呂 二 B (七 五 〇 五 五) 上 海

36

人事

一三

電信 〇七四五
開始 一〇〇〇

譯丁 一一〇〇

電 〇〇六〇〇
電 〇〇六〇〇
電 〇〇四〇八

補 般 〇

親至
親展

東京 通信 隊

支那方面 艦隊 口

聯合艦隊 口・支那方面 艦隊 各 口

機密第一二一八〇〇番電 三分ノ一二三

宛 軍務局長 人事局長 大海參一部長 艦本總務部長

支那方面所在魚雷艇艦載水雷艇高速内火艇大發等武裝用及陸上裝備用

トシテ左ノ通至急供給増派方取計ハレ度

一 船艇用

(1) 各艇落射機二 魚雷三 機銃一三耗單裝又ハ七七耗各一トシ海南

警備府七隻香港方面特別根據地隊一二隻 厦門方面特別根據地隊

通六八一六 六八二四 六八二五 呂一B(七五〇五K) 上海

一 一隻 上海方面根據地隊四四隻（揚子江方面特別根據地隊ノ分ヲ含ム）青島方面特別根據地隊二〇隻

(四) 爆藥

上海方面根據地隊宛九一爆藥一五瓏ヘキシル五瓏下瀨一〇瓏テトリール一瓏機雷用觸角二〇〇本九一機雷信管一二〇個

二 陸上發射櫃（魚雷各三本宛ヲ含ム）海警五 香港方面特別根據地隊
三 廈門方面特別根據地隊三 青島方面特別根據地隊四 上海方面根據地隊驅逐艦ヨリ陸揚發射管二聯四基ニ對シ魚雷二四本

三、要員

(イ) 魚雷調整班各方面毎ニ一隊宛

(ロ) 上海方面根據地隊現ニ中國人使用中ノ船艇ニ對スル乘員トシテ一〇〇名

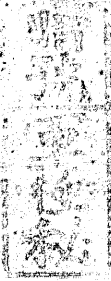
37

一三
 受信一〇七四〇五
 丁二一〇〇
 電電
 〇〇〇六六六
 〇〇〇四四三
 一〇八
 補 般 ◎

東京通信隊

支那方面艦隊

聯合艦隊司令部 支那方面艦隊各口



機密第一二一八〇〇番電 三分ノ二二三

宛 軍務局長 人事局長 大海參一部長 艦本總務部長

支那方面所在魚雷艇艦載水雷艇高速内火艇大發等武裝用及陸上裝備用
 トシテ左ノ適至急供給増派方取計ハレ度

一 船艇用

(イ)各艇落射機二 魚雷三 機銃一三耗單裝又ハセ七耗各一トシ海南
 警備府七隻香港方面特別根據地隊一二隻 厦門方面特別根據地隊

通六八一六 六八二四 六八二五 呂一B(七五〇五K)上海

一一隻 上海方面根據地隊四四隻（揚子江方面特別根據地隊ノ分ヲ含ム）青島方面特別根據地隊二〇隻

(四) 爆藥

上海方面根據地隊九一爆藥一五瓏ヘキシル五瓏下瀨一〇瓏テトリール一瓏機雷用觸角二〇〇本九一機雷信管一二〇個

二陸上發射框（魚雷各三本宛ヲ含ム）海警五 香港方面特別根據地隊
三 廈門方面特別根據地隊三 青島方面特別根據地隊四 上海方面根據地隊驅逐艦ヨリ陸揚發射管二聯四基ニ對シ魚雷二四本

三、要員

(イ) 魚雷調整班各方面毎ニ一隊宛

(ロ) 上海方面根據地隊現ニ中國人使用中ノ船艇ニ對スル乘員トシテ一〇〇名

3A



作戰緊急

受信
開始 二二三一〇七

譯了 一三三五

電 〇六〇八三

航作

本概 〇

三十一通

三十三根

無線電極秘

第一聯合基地航空部隊・H二空襲部隊
機密第一二二一八二五番電

宛發

尚參謀長

一GSFB指揮官

H二AB指揮官

今回ノ地號作戰（軍主力ノ「レイテ」島外ヘノ轉進作戰）實施ノ爲中菲
航空部隊ノ主力ヲ以テ主トシテ夜間我轉進ヲ妨害スル敵魚雷艇ノ制壓ニ
關シ密ニ協力セシメラレ度。

（東通註 本電再送ノ爲遲延）

通六六六〇 呂一E（八八八四KC）三十一通

8801
39



一三三 受信開始 〇〇三三〇
A 〇〇一〇二一 〇〇五九七五
作 概 〇

作戰緊急

第一機動航空部隊

大海軍一部・第三航空艦隊 〇・二五航戦 〇・二七航戦 〇・横領

機密第一一二二一一四番電

電令合作四六八號

機密電令合作第一〇三號ニ依ル第一機動基地航空部隊「マリアナ」方面作戰任務ヲ解ク但シ現被遣中ノ彩票ニ依ル精察ハ特合アル迄之ヲ續行スベシ

第一機動基地航空部隊ハ一月末ヲ目途トシ訓練整備並ニ南九州南西諸島へ一部臺灣へ方面展開ヲ完了主トシテ敵機動部隊ニ對スル作戰ヲ準備スベシ。

通六六八二一〇一B)B)G)E

佐瀬(鈴三)

00

至急
親展

一一三

受信
始一四三〇六

譯了一五〇〇 電〇六一一九

人 事

人 事 局

暗號軍極秘

機密第一三一〇一〇番電

發 第十一特別根據地隊司令官

加治木(サ一九九九)「カムラン灣」基地部隊指揮官トシテ勤務シ
テ「マリア」ニカカリ全治ヲキ相當長期間養生ヲ要スル爲サイ
ゴンニ於テ休養ヲシテアリ詳細藤田中將ヨリ聴取相煩度

通六九七七

目一B八一七五九〇C(十通)

海軍

電信
第十課

01

緊急親展

受信一七五〇三 譯一九二〇 電〇六二五七
開始一八〇〇三 譯一九二〇 電〇六二〇六 海補人◎

次官・次長

海上護衛總部陸谷中・聯合艦隊中

機密第一三一二五三番電 二分ノ六ニ

一、現状ニ對ルニ敵ノ出足窺外早キモノト判斷セラルルヲ以テ詳當リ
左ノ頭取置ス

(イ) 在臺灣海軍軍人軍艦ヲ以テ陸戰特編成ヲ行ヒ本職之ヲ統轄指揮
シ兼當リ航空作戰兵力並ニ整備修補關係及海上護衛並ニ對潛兵力
ヲ除キ且敵情ニ應ジ練習航空隊ノ教育ハ爲シ得ル限り之ヲ續行ス
(ロ) 第六燃料廠施設工事ハ分數工作ノ外之ヲ中止ス

通七〇六四・七一〇八月一B(一二三二〇)高通

海軍(一)

第十信課

ニ右陸軍隊編成ニ伴ヒ至急左記職員方御取計ヲ得度

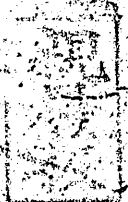
① 岡山海軍地區陸海軍聯合訓練部隊長任指揮官トシテ陸軍關係ニシテ有能ナル大尉級一名（本件陸軍備要録モアリ）同右輔佐官大尉級一名

② 臺灣各地區陸軍部隊中堅幹部トシテ中隊長級（岡山海軍砲術學校出身）十名

電信課
第十課

海軍

42



作戰緊急

一三三
受信二〇〇二
開始二〇二八
訂了二〇五二
七〇六二五六
作信〇
部

第一潜水部隊

東海・聯合艦隊司令部・聯合基地航空部隊
南通・一聯通。南西方面艦隊各戸

無線艦所用共通符號

機密第一三一七一八番電

先遣部隊電令作第一〇號

呂號第四一潜水艦ハ適宜南下レイテ島東方洋上ニ於テ敵補給路ノ攻撃
ニ任シタル後一月下旬吳ニ歸投スベシ（整備地舞鶴ノ豫定）

通七一七三 呂一Bケ三（B）吳

43

一 一四 受信開始 〇〇三一五 了 〇五四〇 電 〇六四七四 補 人 〇

親展報

支那方面艦隊

● 大本營海軍部

● 聯合艦隊司令部・青島根

暗號軍極秘

密第一三二一四二番電

宛 軍務局長 人事局長

支那方面艦隊機密第一二一八〇番電中三項ノ(四)ニ青島根據地隊

一〇〇名ヲ追加ス

通七三四〇 呂一〇〇三(七四六五〇)上海

海軍

第十信

PP

緊急

暗號
極秘

一一四
受信一一三〇〇〇

譯了一四三〇 電〇六六三九

航人一
本專令

人事局・第五航戦ト・?

機密第一四〇八四四番電

發宛 參謀長

當方面彩雲補用品殆トナク且有經驗整備員モ少キ現狀ニ鑑ミ取敢ズ
五名、次回基地派遣進出ノ際ハ一機宛二名(補用品持參)ヲ附セラ
レ度。

通七四八八 壽一〇(一〇二六五〇)IGFGBV 海軍

電信課
第十課

親展



一四 受信一七六一〇八 譯了一七三〇 電〇六六八六 作 〇

● 總無線艦所用共通符號

● 三十根

● 東通。大海。第一聯合通信隊。聯合艦隊口



機密第一四〇一〇五番電

發 第六艦隊參謀長

當隊 兵力一部

以テ一月十二日(十三日又ハ十四日)トナリタルヤ
モ知レズ)日出約一時間前コスソル水道ニ對シ奇襲ヲ決行セル所礎
泊艦船ノ狀況速報アリ度。

通七五 八

呂三Bラ六)

B

佐通

永島

雨

谷

46

親展

一 一五
開始 一三〇〇 一七〇〇 〇〇七〇三五
補空



暗號

機密第一四一五〇七番電 二分ノ一二

發 G.P.O. 參謀長

一月十四日ニ於ケル當隊航空兵力可動數 (搭乗員其ノ他) 彩雲六
 (十一) 整備員不足ノ爲連續使用一機 (艦上偵察機三 (五)
 受機二〇 (ツゲカラ才特攻) 同二五 (九臺中練成中) 紫電二機
 (五) 月光四 (一五夜間七) 彗星六機六 (六錄成中) 陸攻三機
 (六夜間三) 天山七機 (三月夜二) 瑞雲五 (五夜間二) 大艇一
 (一)

通七九〇三六 呂二Bケ三 (九一四五C) 高放 海軍

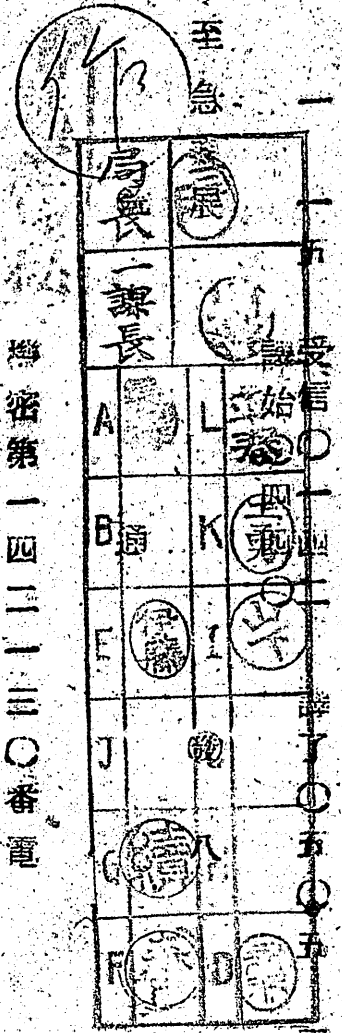
第十信

一 本日迄ニ判明シタル二十日迄ノ増勢穩定銀河二一機ノ他不明
 三 右ノ狀況ヨリ在菲島乘員整備員ノ空輸收容及空挺部隊ニ依ル内地
 三 空輸促進ノ目下ノ急務極力之ヲ實現ニ努力シツツアリ。

電信課
第十課

海軍

49



機密第一四二一三〇番電

三分ノ二二三

至急

發 M T R 參謀長

宛 大海參一部長 人事局長

當除機密第一八一八三三番電及機密第一八一八五二番電(十二月)

關聯

一、作戰ノ必要上既ニ兵力部署ヲ以テ後動決戰部隊ヲ編成済ナルトコロ
 指揮掌握及人事管理等ノ關係上之ヲ獨立所轄トナスノ要アリナル
 ベク速ニ特隊編成ノ件發令ヲ希望スルモ特隊ノ編成困難ナル場合ハ
 第八〇警備隊トシテ編成方取計ヲ得度萬一是モ實現不可能ナル場合
 ハ關係員ヲ全部 M T R 司令部トセテレ度

通七七六九・七七七〇・七七七六 呂三Bケ三(五三二五)八

右側(左)

(一)

〇〇〇
六六八
六八七
八七五
七四

作概
◎

ニ 配員ニ對スル希望左ノ通

司令丹野(一〇二五)副官又ハ隊附條田(五三〇六)分隊長大里

(三〇六五)桐生(三〇二四四〇)長尾(三〇三一二九)軍醫

長兼分隊長大木(タ八九四)主計長兼分隊長武内(シ一五六九)

隊附山田(三五四三)小川(原(ソ二五二三)竹内(ソ二九八一)

(永田(タ一三五八)兼第八通信隊司令石川(二一四三))

(以上數字ハ舊ナリ)。

48



緊急
親屋

局長	一等長	二等長	三等長	四等長	五等長	六等長	七等長	八等長	九等長	十等長
局長	一等長	二等長	三等長	四等長	五等長	六等長	七等長	八等長	九等長	十等長
局長	一等長	二等長	三等長	四等長	五等長	六等長	七等長	八等長	九等長	十等長
局長	一等長	二等長	三等長	四等長	五等長	六等長	七等長	八等長	九等長	十等長
局長	一等長	二等長	三等長	四等長	五等長	六等長	七等長	八等長	九等長	十等長
局長	一等長	二等長	三等長	四等長	五等長	六等長	七等長	八等長	九等長	十等長
局長	一等長	二等長	三等長	四等長	五等長	六等長	七等長	八等長	九等長	十等長
局長	一等長	二等長	三等長	四等長	五等長	六等長	七等長	八等長	九等長	十等長
局長	一等長	二等長	三等長	四等長	五等長	六等長	七等長	八等長	九等長	十等長
局長	一等長	二等長	三等長	四等長	五等長	六等長	七等長	八等長	九等長	十等長

● 東海・第二遊撃部隊F・前西方面部隊F

用共通符號

暗號軍極秘

機密第一五〇九五番電

發 第二水雷戰隊司令官

通報 大澤參一郎長

此ノ關係ヲ矢矧ニ復歸作戦致度尙矢矧ニハ別ニ新司令艦附編成乘
艦シアルヲ以テ復歸ニ際シテハ本艦以下機員五名ノミ移動セバ可ナ
ル情況ニアリ。

一 東通註 開始符不明ノタメ翻譯遲延

通九六七五 長二日ケニ

海軍

第十部

09

一五 受信一六一二 譯始一六四五 譯了二七一四 電〇七一〇〇 作概〇

至 急 展 東

局長	
通	
伊	
伊	
伊	

第一聯合基地航空部隊△二六航戰

機密第一五一四二四番電

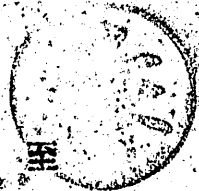
發 G E P 參謀長

宛 大海參一部長 軍務局長

一 G E P 機密第一三一六三二番電ノ件ハ真ニ同電ノ通ナルモ交通
輸送不如意ナル現状ニ於テハ畢竟現有ノ人員及既計畫ノ部署ヲ以テ
作戰スルノ一途ニシテ制度ノ如何ハ重要問題ニ非ザルモノト認メテ
リ

通八〇九一 口二B (一)二八一〇 RC (五)分遣

50



至
急

一六

受信
開始
〇〇二二五

丁〇三五五

電〇七四三二
作機〇

東	長	一	長	通	長	通	長
東	長	一	長	通	長	通	長
東	長	一	長	通	長	通	長
東	長	一	長	通	長	通	長
東	長	一	長	通	長	通	長
東	長	一	長	通	長	通	長
東	長	一	長	通	長	通	長
東	長	一	長	通	長	通	長

機密第一五一五二八番電

發 三〇根據地隊參謀長

宛 六戸參謀長

實機密第一四〇一〇五番電返

ニズツル水道「時ニ東口方面」ニ封スル敵ノ哨戒狀況ハ艦艇及哨戒機共
 ニ十二及十三ノ兩日ハ平常ニ比シ極メテ嚴重ナリシモ碇泊中敵艦艇ニ
 關シテ特異ナル事象ヲ視認シ居ラズ。

通八三八二 呂三〇(四二七〇) 一浦 佐瀨(小)

八八五三三
九八五三七
八八六一七

茂臣

水野・小林・岡田(小野田)

海軍

要領者 在野武官
 要領者 大官 艦政本部長
 サツキ第二艦隊組トシテ新朝ノ途ニ着ケル海軍大佐山田精二以下四
 名及サツキ第二艦隊長ニ對シ左ノ通り臨時功績具申ス各官ニ對シテ
 美通ナルハ臨時下ノ新艦隊ニ昭和十八年末以來敵ノ大規模空襲下ニ
 於テ眞ニ第一艦隊兵ト同様ノ危險上幾多ノ困難ヲ克服能ク各自ノ任
 務ヲ遂行トル事ナリ臨時功績具申海軍大佐山田精二昭和十四年一月

暗號電極

機密第八六七番

六分ノ一二三四五

一三二二二三〇

大	二	長	A	L	B	K	E	I	J	C	O
(Seal)	(Seal)	(Seal)	(Seal)	(Seal)	(Seal)	(Seal)	(Seal)	(Seal)	(Seal)	(Seal)	(Seal)

一 一六
 一 一五
 一 一三
 一 一〇

〇〇〇〇〇〇
 八七八八
 三三三三
 九七七七

海軍大臣

功績調査

第十回

以來在海上記關係監督官トシテ勤務歐州觀摩船邊スルヤ艦ヲ兼西派
 監督ヲ命ゼラレ主トシテ同地ニ於テ快報勤務ニ從事スルト共ニ艦々
 來朝固本監督官事務ノ外首席監督官トシテ監督長ヲ擔任シ在歐五年
 本艦ノ勤務ヲ終了昭和十九年三月三十一日サツキ第二號乗組トシテ歸
 國歸朝ノ途ニ着ケリ

明瞭ナル副監督官ナル如藤旺盛ナル作業力ニ加フルニ積極進取ノ氣
 性ト熱烈ナル奉公ノ至誠トニヨリ技術官トシテハ固ヨリ精進勤務ニ
 於テモ彼等ノ成績ヲ譽ゲ大東亞戰事ニ寄與セル功績ハ數語ナリ左ニ
 其人主ナルモノヲ示ス監督官トシテノ功績
 一、來歐後直ニ「フクウソボベリ」高壓「タービン」ヲ實習「ター
 ビン」ヲ内地ニ送付ト共ニ技術ヲ導入セリ
 二、昭和十六年觀摩實來朝ノ前ハ上記期間全體ヲ檢査シ各部ヲ詳細觀
 察シ其ノ後ノ技術導入ノ機關ヲ把握セリ

第十信限

海軍

電信課
第十課

三、機關關係技術修得ノ爲各社ニ於テ實習シ精巧圖面ヲ獲得セルガ其
ノ主ナルモノ左ノ如シ

(甲)「ワグナイターピン」(製造原價六百二十萬馬克)

(乙)主軸製造機手(一五萬五千馬克)

(丙)抽水機及復水機(六三萬馬克)

(丁)サツキ運送水艇(製造)

(戊)魚雷艇用主機機M B 五〇一型及M B 五一一型(製造原價八百七
十六萬馬克)

(己)大型相打ハンマー(三四萬四千四百馬克)

(庚)「クランク」軸研磨機(二五萬五千馬克)

四、帝國海軍本部ノ命ハ(伊號八)回艦機部隊ノ新設改
造修繕ニ關シ主務者トシテ努力又サツキ第二號機員ノ技術指導ニ
當リテハ機員ト共ニ工場ニ於テ熱心ニ實習シ短期間内ニ成果ヲ奏

海軍

ケリ

兵部海軍技術常用ト當ニ密接ナル連絡ヲトリ計畫資料ノ獲得情報入手ニ努メ日朝兩海軍ノ親善ニ努メ帝國技術輸入ニ大イニ資與セリ
 海軍技術常用トシテノ功績ニ就テ第二八一番海軍事務員電ノ通海軍中佐根本雄一昭和十四年五月着到以來進駐監督官トシテ職務在
 歐殆ンド五ヶ年ニ及ビ昭和十九年三月三十一日サツキ第二期畢業
 トシテ陸軍部陸軍ノ進ニ着ケリソノ職務始終心ニ帝國ノ進駐技術ヲ
 研究調査シ之ヲ帝國海軍ニ導入セル功績顯著ナルガ特ニ左記ハ同
 官ノ大ナル功績ニシテ大東亞戰ニ資與セルトコロ極メテ大ナル
 モノアリト認ム

一潜水艦専門家トシテ海軍各艦隊水艦ニ付駐在ナル技術調査ヲ
 ナシ其ノ都度有力ナル資料ヲ中央ニ報告セル外特ニ電氣機件ヲ
 専攻シ其ノ技術ヲ帝國ニ導入セル功績ハ特筆スベキモノナリ。

一海軍部駐 本國外分ノ大末着

第十位 保銀

海軍

52

暗號軍極秘

親展

一 二〇 受信一八三〇〇 譯了二一一〇 電〇九八六二 補人 〇
二 〇四〇〇 功績調査部 功調 國令・監政

次次

長官

在ドイツ武官（ベルリン）

機密第八六七番電 六分ノ六 二二二二三〇

ニ帝國潜水艦來歐ニ際シテハ每期終始佛國沿岸ノ獨潜水艦基地ニ滯
 在シ最新ノ戰訓ト最新ノ技術ヲ加味シソノ整備新設改造ニ從事シ
 以テ作戦行動ニ遺憾ナカラシメタリ伊號三〇・伊號八・伊號二九
 潜水艦
 ミサツキ第二號ノ整備並ニ乘員訓練ニ當リテハ技術方面主務者トシ
 テ同艦ヲ最新最鋭ノ艦トシテ整備スルニ努力シ新設改造修理等遺
 憾ナカラシメ又機構説明書ノ整備諸部署ノ翻譯等短期間ニ同艦
 ノ出張準備ヲ完成セシメタル功績ハ極メテ大ナリ
 一 電信課註 本電六分ノ六三三與五既配布

通一〇八九三 茂 B

海軍

第十信

53

親

局長	一課長	二課長	三課長	四課長	五課長	六課長	七課長	八課長	九課長	十課長
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K

受領 〇二〇五〇〇
 了 〇九〇五

電 〇〇〇〇〇
 八八八八八
 三三三三三
 五五五五四
 四三一〇九

總務部
 政令入
 ◎

機密第八六八番電 八分ノ二三三七八
 四五六

一三三三〇〇

發信者 在獨館附武官

兼務者 次官、次長、總政本部長、航空本部長

機密第八六八番電

海軍技術中佐吉川森夫、昭和十四年六月以來前後約五ヶ年ノ要キニ
 亙リ戰時下ノ在獨館本監督官トシテ勤務シ十九年三月三十一日サウ
 キ第二陸軍總ヲ命ゼラレ陸海軍閣ノ達ニ就ケリ此ノ間本人ノ主擔任

一八八六七・八五三〇・八八三四
 一八八六六・九二七五
 一八八六五・九二七八

茂B

海軍

第十部

事項タル航空發動機關係ハ勿論航本主席監督官トシテヨク航本監督官事務ノ全般ヲ指導統制シ又一方日獨ノ技術協同提携ニ關シ一新生面ヲ開拓セリ日獨技術特別連絡組織ノ新設育成ニ當リテハ熱誠努力ヲ傾注シ以テ戰時下日獨航空技術ノ協同提携上監督長ヲ補佐シテ余ス處ナク其ノ直接間接ニ大東亞戰ニ寄與セル功績ハ特ニ拔群ナルモノアリト認ム尙本人ノ功績中特記スベキモノ左ノ通

一 獨空軍省トノ技術連絡ヲ勤モスレバ列小國並ニ事務的ニナリ勝ナリシ當時ノ困難ナル一般狀勢下ニ獨備各部ニ潛在セシ多大ノ抵抗ヲ熱心ニ説得排除シ逸早く日獨間専門ノ特別技術連絡組織ヲ新設スルト共ニ爾後之ガ育成善導ニ不斷ノ努力ヲ拂ヒ今日本組織ヲ通ジ迅速緊密ナル協同ヲナシ得ツツアルハ本人ノ努力ニ俟ツ處極メテ大ナルモノアリ

二 前項特別組織ヲ通ジ獨備航空技術ノ吸收導入ニ努ムル一方獨備ヲ

第十信限

シテ正當ニ觀我ガ國航空技術ノ現狀ヲ理解認識セシムル事ニ對シ
 テモ熱心努力セシ結果獨裁技術會ノ帝國海軍航空技術ニ關スル感
 謝ト尊敬ノ念トヲ助長シ延イテ日獨技術協同ノ實行ヲ一層容易ナ
 ラシメタル點特別組織運用上ニ於ケル一面ノ功績トシテ看過スベ
 カラザルモノアリ

三 昭和十六年遠獨軍軍觀察團來歐ニ當リテハ團員ノ一員トシテ擔任
 事項ハ勿論團團着歐前ノ諸準備ヨリ離獨後ニ於ケル諸般ノ整理ニ
 至ル迄空軍技術關係ノ全般ニ亘リ團長位ニ新來ノ同僚ヲ輔佐シ
 同團任務ノ完遂上貢獻セル功績大ナリ

同航空機生産上最大ノ陸路タル航空發動機ノ多量生産技術ノ獲得吸
 取ニ對シテハ工場實習ニ調査研究ニ又ハ工作機械ノ入手ニ甚大ナ
 ル努力ヲ竭ヒ此ノ方面ヲ通ジ直接間接ニ帝國航空多量生産技術ノ
 向上ニ資セル處大ナルモノアリ

電信課
 第十課

英獨空軍多年ノ研究努力ノ結晶ニシテ而モ航空技術ニ一大變革トモ
 謂フベキ一翼ケツト一推進飛行機ニ關スル技術ノ獲得ニ當リテモ
 熱心不斷ノ努力ヲ續ケ遂ニ獨備ナシテ之ニ關スル技術ヲ全面的ニ
 提供セシムルニ至リタルモ本人ノ努力ニ負フ處大ナリ

六各種新兵器へ主トシテ航空發動機飛行機機銃一入手交渉及各國航
 空情報ノ蒐集ヲ通ジ帝國航空技術ノ發達ニ貢獻セル處大ナリ

七サツキ二號乗員ノ教育訓練ニ際シテハ本人ノ有スル技術的智識ト
 語學力トヲ活用遺憾ナク艦長ヲ補佐シ乗員教育ノ目的ヲ達成セシ
 ノタリ

海軍大佐在見哲四郎・昭和十八年・官房後密第ニ七九號・訓令任
 務ヲ持ツテ伊號二九潛水艦ニ乗艦獨國ニ向ケ出撃洋上ニ於テ獨潛
 水艦ニ移乗同年七月兼獨國訓令ニ基ク潛水艦關係各種調査ニ從事
 セル外サツキ第二號ノ整備並ニ乗員ノ訓練ヲ施行シ昭和十九年三

月三十一日同艦乗組トシテ離獨歸朝ノ途ニ就ケリ其ノ間終始極メ
 テ熱心ニ右各責任務ニ從事シ居ノ暇マル暇ナク期間長カラザリシ
 ニ拘ハラズ有力ナル資料ヲ獲ノ中央ニ報告シ大東亞戰ニ寄與セル
 功績ハ極メテ顯著ナルモノアリト認ム左ニ其ノ主要ナルモノヲ例
 示ス

一、獨海軍ニ就キ左記事項ヲ詳細調査研究シ其ノ成果ヲ其ノ都度中央
 ニ報告セリ

- (イ) 潜水艦交通被襲戰要領並ニ其ノ戰訓
- (ロ) 潜水艦部隊ヲ編成指揮並ニ訓練方式
- (ハ) 潜水艦關係制度定員施設ニ關スル事項就中要員ノ急速多量養成
 法
- (ニ) 潜水艦ノ襲撃法及警戒並ニ被攻撃回避ニ關スル事項
- (ホ) 潜水艦ノ補給衣糧衛生ニ關スル事項・尙同官ガ八十日ニ亙リ獨

第十四號

潜水艇ニ便乗自ラ戦國航海ヲ体験セルハ其ノ研究ノ成果ヲ特ニ
大ナラシメタリ

ニサツキ第二艦ノ整備並ニ乗員訓練・昭和十八年八月以來十九年三
月末同艦ガ出張スル迄殆ンド常時艦並ニ乗員ト行動起居ヲ共ニシ
克ク艦長ヲ指導シ若クニ海軍ト連絡シ同艦ノ整備並ニ乗員ノ訓練
ヲ遺憾ナカラシメタリ

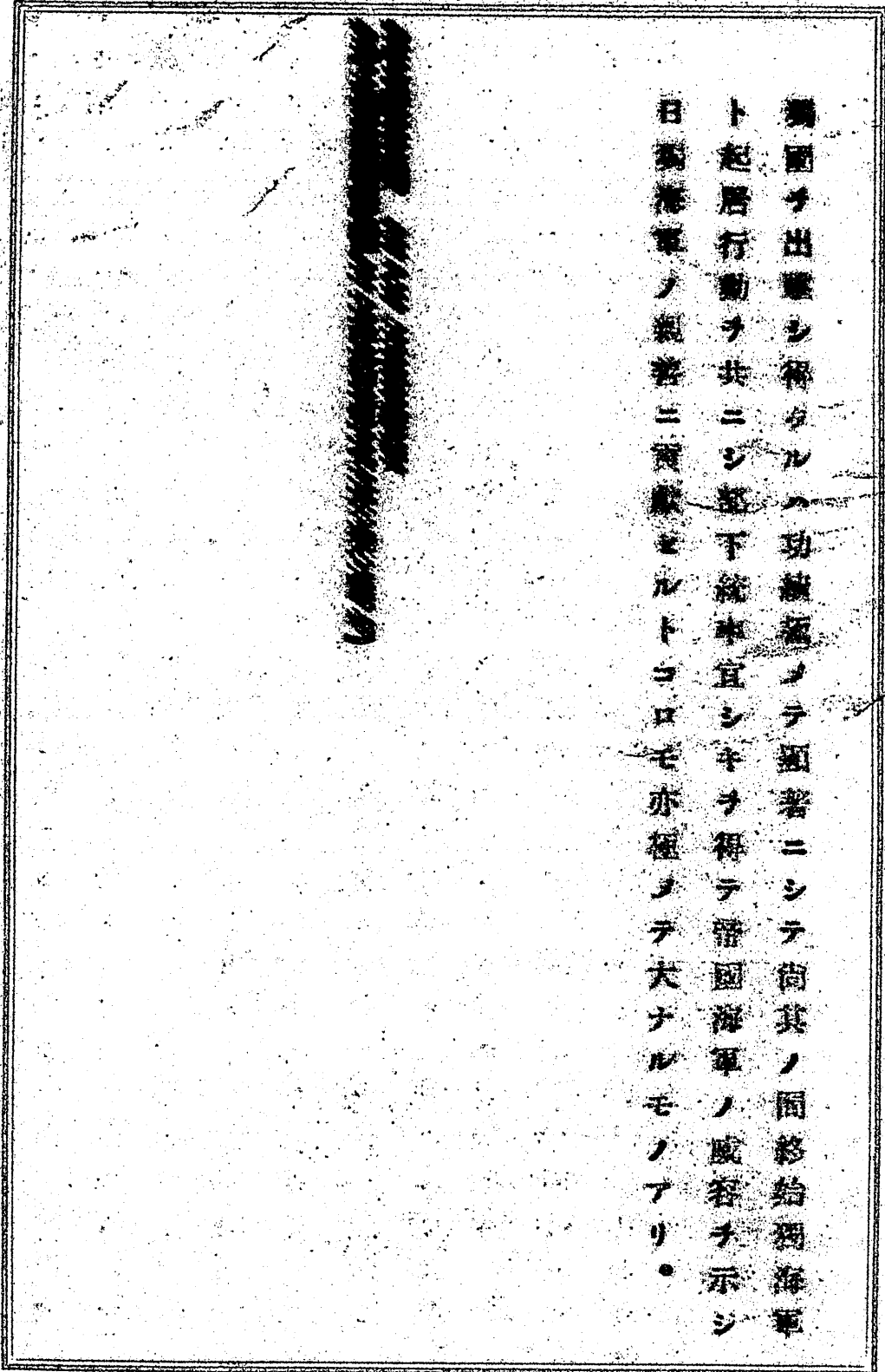
第拾四
回



三藩調以來柏林ニ滞在セルコト極ノテ少ク殆ンド常ニ獨海軍潜水艦
 訓練者ト美ニアリテ其ノ人格ヲ通シ直捷剛直ニ發セル處大ナルモ
 ノアリシクミナラズ間接ニ日獨海軍訓練ニ寄與セル功績又大ナリ
 海軍少佐兼海軍教官和十八年九月以後第八潜水艦乗組サツキ第二
 號艦長兼定者トシテ獨海軍來柏林ト密接連絡ノ下ニ部下ヲ督促
 實ヲ志シ獨海軍者事者ト緊密協同シ實語風俗習慣ヲ具ニスル上獨
 海軍訓練施設等各所ニ散在シ極シテ困難ナル狀況下ニモ拘ハラズ
 能ク部下ヲ訓練統率シ以テ獨艦ヲ急速整備セシメ且各種實際訓練
 ヲ實施スル外戰術ノ蒐集ニ勉メ之ヲ悉ク獨艦ノ整備ニ應用シ昭和
 十九年二月末獨艦ヲシテ帝國艦籍ニ編入シ得ルニ到ラシメ爾來艦
 長トシテ引續キ獨艦ノ整備並ニ訓練ニ從事獨艦ヲシテ最新鋭且練
 度向上セル第一級潜水艦ヲシメ三月三十一日遂ニ帝國ニ納ケ

第十信限

海軍



獨國ヲ出陣シ得タルハ功績甚ノテ顯著ニシテ尙其ノ間終始獨海軍
 ト起居行動ヲ共ニシテ下統率宜シキヲ得テ帝國海軍ノ威容ヲ示シ
 日獨海軍ノ親善ニ貢獻セルトコロモ亦極メテ大ナルモノアリ。

第十條

軍